



JAりんご部会  
高山支部

シ	さ
	わ
ド	や
ル	かり
に	りん
加	ご
工	を

JA須高りんご部会  
高山支部はこのほど、  
たかやしろファーム  
(中野市)に醸造を委  
託して、信州高山さわ  
やかりんごを原料にし  
たシードル(リンゴ酒)  
を作った。傷などで市  
場販売できないサンふ  
じを使い、生産者の所  
得向上や新たな特産  
品、さわやかりんごの  
一層のPRにつなげた  
い考えだ。  
甘口と辛口の二種類  
で、それぞれ三六〇ミ  
リ(八百円)と七五〇  
ミリ(千三百円)があ  
る。

アルコールド数八  
%。ラベルの商品名「白  
の香り赤のためいき」  
の文字は久保田勝土村  
長が書いた。  
新商品としてほか  
に、サンふじのジュー  
スや王林のワイン、サ  
ンふじと王林のジャム  
も作った。高山支部で  
は今後、さわやかりん  
ごの高級品や加工商品  
を統一ブランド名「白  
の香り赤のためいき」  
として販売していく。  
同支部では「シード  
ルは飲みやすいので、  
若者などにも受け入れ  
られる。加工して付加  
価値を付けることで、  
生食用とは別の形でP  
Rしてさわやかりんご  
を広めたい。少しでも  
生産者のためにもなれ  
ば」と話している。高  
山共撰所(☎245-  
2348)で販売して  
いる。

# 規格外リンゴ使い酒

長野・J A 須高の部会 農家手取り向上めざす



新発売のシードル「白の香り赤のためいき」などリンゴ加工品を紹介する内山信行支部長(中央)

から部会員の手取り価格向上を目指し「信州高山さわやかりんご」のブランド化に取り組んでいる。選果基準の厳格化、フルカラー箱の使用による最高級品「プレミアムゴールド」(10ポ1万3000円)を発売するなど、ブランド化戦略を着々と進めている。支部では今後、「さわやかりんご」の高級品や加工商品を統一ブランド名「白の香り赤のためいき」として販売していく方針。「シードルは大変飲みやすいので、若い人たちにも幅広く受け入れられるよう願っている」という。

【長野・須高】J A 須高りんご部会高山支部は、「信州高山さわやかりんご」を原料にした「白の香り赤のためいき」という名のシードル(リンゴ酒)を造り、期間を限ってJ A 高山共撰(きょうせん)所の直売コーナーで販売を始めた。昨年、晩生種を中心に加工向けリンゴ価格が下落したのを受け、少しでも付加価値を高め、部会員農家の手取り価格を向上させるのが目的だ。

醸造は中野市のたかやしろファームに委託。原料には、傷などで市場販売できない「サンふじ」を使った。甘口と辛口の2種類あり、360ミリリットル入り800円と750ミリリットル入り1300円がある。アルコール度数は8%。同支部は、2004年

# 高山村産リンゴで発泡酒

## 農家ら付加価値高め発売

高山村内のリンゴ農家でつ

くる「須高農協りんご部会高山支部」は、村産のふじを原料にして造った発泡酒（シードル）、「白の香り 赤のためいき」の販売を始めた。昨季に加工用リンゴの卸値が下落したことに危機感を抱いて、高い付加価値の商品を生

みだそうと企画した。

甘口と辛口の二種類。それぞれ360ミリと750ミリ入りがある。色つきや実の締まりが良い村産リンゴは「信州高山さわやかりんご」としてブランド化されており、シードルも深い味わいが楽しめる。「特産品のPRに一役買

ってもらおう」と、ラベルの商品名は久保田勝土村長に書いてもらった。ワイン醸造販売会社「たかやしろファーム」

（中野市）が造った。昨季のふじは豊作で、加工業者の引取価格が例年に比べ6〜7割低くなることも。独



さわやかな味わいが人気のシードル「白の香り 赤のためいき」

自の加工品で生産者の経営改善につなげようと、ジュースやジャムに比べると商品化例が少ないシードルに着目した。開発を担当した小林和弘さん(41)は「飲みやすく、自分も每晚飲んでいる」とアピール。360ミリ入り800円。750ミリ入り1300円。須高農協高山共選所などで売っている。問い合わせは、同共選所(☎026・245・2348)へ。